

2019年度 第2回稚内市地方創生市民会議 質問等の概要

◆第2期稚内市まち・ひと・しごと創生総合戦略（素案）について

【基本目標1】

| 質問・意見 | 回答 |
|--|------------------------------------|
| 事業者数が減少しているが、事業主の高齢化と後継者がいないことで廃業している方が多い。これらに関する文面も追加した方が、現実的な戦略になるのではないかと。 | 検討する。 |
| 再生可能エネルギーの地産地消の実現に向け、バイオマス発電に関するKPI等も記載した方がよいのではないかと。 | 取り組みを進めることは間違いないので、KPIの設定が可能か検討する。 |
| 地元企業や産業を知ってもらうイベントとして、稚内青年会議所が「わくわくワークフェス」を開催しているが、その参加者数をKPIに設定できないかと。 | 検討する。 |

【基本目標2】

| 質問・意見 | 回答 |
|--|--|
| 外国人の観光客を増加させていくには、ターゲットの設定も必要である。 | |
| KPIの「移住体験住宅の利用組数」は、目標値をもう少し高く設定してはどうか。 | 現在の体験住宅の戸数や貸し出し期間を踏まえると、貸出可能な組数が限定的になり、その中で、現状値よりも利用率を上げていく目標値を設定した。 |

【基本目標3】

| 質問・意見 | 回答 |
|--|---|
| KPI「『将来の夢や希望を持っている』児童生徒の割合」の目標値が100%となっているが、目標値を達成するためには、子どもだけでなく、周りの大人たちも元気になれるような施策も進めていくことが大事になる。 | 子どもたちに対する当指標については、この目標値を目指して取り組みを進めるべきであると庁内で議論し、100%とした。 |
| 不妊治療や少子化に関連する内容も盛り込まれているが、命の問題に関わってくる性教育についても、当戦略では難しいかもしれないが今後施策を進めてもらいたい。DVや虐待の問題にも繋がると思う。 | 取り上げ方は総合戦略以外の計画等も含め、検討する。 |

【基本目標4】

| 質問・意見 | 回答 |
|---|-------------------------------|
| 文章の中に「医育大学」など、聞きなれない言葉が多々ある。 | 資料編として、用語集に説明文を掲載する。 |
| 「地域包括ケアシステムの強化」の文言は、現状を踏まえると「地域包括ケアシステムの充実」といった表現のほうがよいのではないかと。 | そのような表現方法に変更する。 |
| 「グローバル化の進展等により、これまでの価値観では対応できない社会が到来…」とあるが、グローバル化によってどういった影響があったのかわかりづらい。 | 例を挙げながら、文章を作成し、わかりやすい表現としていく。 |

| | |
|--|---|
| <p>「断らない包括的な相談体制の構築」とあるが、これまでも相談を断るようなことをしてきていないので、別な表現方法がいいのではないか。</p> | <p>「断らない」とは、1箇所では様々な相談に対応する体制を示しているものであり、国も同じ表現方法を用いている。現時点では見慣れない表現方法かもしれないが、今後様々な場面で使用されることになると考えている。</p> |
| <p>「主体的に地域活動等に参画してもらうポイント制度の導入」とあるが、ポイント制度の導入により地域活動が進むのか不安である。</p> | <p>福祉分野だけでなく、ボランティア活動や地域活動に対してポイントを付与し、様々な分野で社会参加を促せるよう具体的な内容を検討中である。</p> |
| <p>中高年の引きこもりが増えており、そういった方々の社会参加も進められるよう、空き家を活用して気軽に集まれる場所を作ってもらいたい。</p> | <p>空家になると安全管理の問題があるが、現時点でも活動拠点センターを利用しながら、サロンのような形で集会を開催している地域もある。こういった活動を広げていけるよう、庁内各部署において検討していく。</p> |
| <p>K P Iの「地域避難計画の策定数」は、目標値が41町内会となっているが、災害はいつどこで発生するかわからないことを考えると、早急に対応しなければならない問題であり、K P Iにはそぐわないと思う。</p> | <p>検討する。</p> |
| <p>誰もが活躍できる地域社会を目指すのであれば、老人クラブの会員数やふれあいランチの実施町内会数もK P Iとして有効ではないか。</p> | <p>検討する。</p> |